

たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について

1. 効果検証の目的について

たかまつ創生総合戦略では、「Plan-Do」として効果的な総合戦略の策定・実施、「Check」として総合戦略の成果の客観的な検証、「Action」として検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂という一連のPDCAサイクルのプロセスを実行することとしています。そのため、本懇談会において、委員のみなさまには「Check」の視点で御意見等をいただき議論を踏まえ、今後の「Action」につなげます。

2. 効果検証について

懇談会当日の進行方法について

たかまつ創生総合戦略に登載した全53施策の中で、**令和2年度重要業績評価指標(KPI※)の実績値が令和2年度目標値の90%を下回った施策(19施策)を中心に、効果検証**を行います。

※KPI：Key Performance Indicatorの略。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

3. 事前送付資料について

□当日資料 1

たかまつ創生総合戦略に関する効果検証資料です。たかまつ創生総合戦略に登載した各施策の指標の説明や、目標値、実施値、目標設定の考え方等を一覧表にしております。

□回答表 1

重要業績評価指標(KPI)がR2目標値の90%を下回った施策の一覧を記載していますので、御意見や御質問がある場合は、回答表1に記入し提出をお願いします。

| たかまつ創生総合戦略 回答表 | | | 回答表 1 |
|---|---------|-------------|------------------|
| <p>・「当日資料1」の効果検証用参考資料に記載した施策のうち、R2年度重要業績評価指標(KPI)の実績値がR2年度目標値の90%を下回った施策の一覧を記載しています。「当日資料1」の内容を御確認いただき、意見や質問等がある場合は、下記に該当事項を記載し御提出ください。</p> <p>・提出期限：8月5日(木)</p> <p>・提出方法：高松市政策課へ電子メール(seisaku@city.takamatsu.lg.jp) 又はFAX(087-839-2125)で御回答願います。</p> <p>・誠に勝手ではございますが、5日正午までにご連絡のない場合は、意見無しとさせていただきます。</p> <p>・お寄せいただいた質問に対する回答は、取りまとめて懇談会当日までに送付させていただきます。</p> | | | |
| | | 委員名 | 様 |
| 当日資料1 記載ページ | 施策番号 | 具体的な施策 | 施策・事業に対する意見・質問など |
| 1ページ | 1-(1)-① | 中小企業等の育成と振興 | |
| | 1-(1)-② | 中央商店街の活性化 | |

たかまつ創生総合戦略 効果検証用資料

戦略：人口減少社会を抑制する戦略

基本目標：1 創造性豊かで人間中心のまちを創る

数値目標：令和6年度に本市の主な観光施設等利用者数 7,300千人（当初値 平成30年度：6,595千人 → 令和元年度：6,647千人 → 現状値令和2年度：3,945千人）

当日資料 1

達成度（15施策）：100%以上 3施策 90～99% 3施策 80～89% 0施策 60～79% 2施策 59%以下 6施策 実績なし 1施策

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|-------------|--------------------|--------------------|---------|--------------------|--------------------------------------|--|---------------------|-------------|-------------|--------------|----------------|---|------------------------------|---|--|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 平成30年度 実績 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 目標値 令和2年度 | 目標値に対する 達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| 人口減少を抑制する戦略 | 1 創造性豊かで人間中心のまちを創る | 地域を支える産業の振興と経済の活性化 | 1-(1)-① | 中小企業等の育成と振興 | 合同就職面接会参加企業の有益度（%） | 本市と高松商工会議所等の共催により開催している合同就職面接会について、採用候補者がいた等の理由により有益と回答した企業の割合 | 61 | 52 | 55 | 70 | 78.6% | 「中小企業経営講習会の年間受講者数」よりも、より成果指標に近い「合同就職面接会参加企業の有益度」を指標に設定。 | 産業振興課 | 面談希望者が多い企業、少ない企業と二極化しており、面談数が少ない企業の満足度が下がったため。 | 面談する企業を決めかねている参加者については事務局が参加者の要望等を確認して、企業ブースに案内するようサポートするとともに、参加学生数を増やすため、各大学への周知活動を強化してまいりたい。 |
| | | | 1-(1)-② | 中央商店街の活性化 | 中央商店街への新規出店数（店舗） | 中央商店街への延べ新規出店数 | 216 | 18 | 56 | 83 | 67.5% | 第3期高松市中心市街地活性化基本計画において、令和6年度の目標値を271店舗に設定しているため。271店舗を計画期間5年9か月で按分し、年47店舗増（令和元年度は9か月で36店舗）と設定。 | 産業振興課 | 新型コロナウイルス感染症の影響による景気の悪化により、小売店や飲食業を中心とする商店街への出店希望者が減少したため。 | 中央商店街の空き店舗に新規出店する事業者者に改装費を支援する新規出店補助制度に、40歳未満の出店者に対するインセンティブを設けるとともに、創業塾等を活用し制度の周知に取り組み、出店数の増加につなげる。 |
| | | | 1-(1)-③ | 企業誘致・交流の推進 | 企業誘致助成制度指定件数（件） | 企業誘致助成制度の指定件数（H21年度以降の累計指定件数） | 75 | 87 | 93 | 95 | 97.9% | 第6次高松市総合計画では令和5年度の目標値は75件に設定していたが、平成30年度に目標値に達したため、令和5年度目標値を125件（年10件指定）に上方修正したものの。 | 産業振興課企業立地推進室 | 新型コロナウイルス感染症の影響による企業の設備投資計画の先延ばし等により、指定件数が伸びず、目標値を下回った。 | 企業誘致専門員を中心に、関係機関から収集した企業の立地・設備投資情報に基づく企業訪問を行い、企業誘致助成制度の活用や、企業が抱える操業上、立地上の課題に対するワンストップサービスでの解決支援など、積極的な企業誘致に取り組む。 |
| | | | 1-(1)-④ | 生産体制の整備 | 認定農業者数（経営体） | 本市が認定した認定農業者数 | 315 | 318 | 328 | 320 | 102.5% | 第6次高松市総合計画 農林水産業の振興 令和5年度目標 320経営体 | 農林水産課 | | |
| | | | 1-(1)-⑤ | 生産の振興 | 農畜産物販売金額（JA取扱金額に限る）（億円） | 市内の農畜産物販売金額（JA取扱金額に限る） | 41.3 | 42.6 | 41.9 | 42.0 | 99.8% | 近年、農作物販売が順調なことから、令和元年度において目標値を38.2億円から42.0億円に上方修正している。 | 農林水産課 | 担い手の規模拡大等により、生産は順調であったものの、ブロッコリー等の単価の低迷や、新型コロナウイルス感染症の影響による需要減により、目標をわずかに下回った。 | 担い手の支援施策等を継続して行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、需要が低迷した品目の販売促進をJAと連携していく。 |
| | | | 1-(1)-⑥ | 生鮮食料品等流通の強化 | 卸売市場の取扱金額（億円） | 青果、水産物及び花きの取扱金額 | 318 | 305 | 293 | 318 | 92.1% | 第6次高松市総合計画では令和5年度の目標値は323億円に設定しているが、卸売市場の取扱高は全国的な動向と同じく、消費流通形態の変化等により低下していることから、創生総合戦略における目標値を318億円へ下方修正した。 | 市場管理課 | 卸売市場の取扱金額は、全国的な動向と同じく、消費流通形態の変化等により低下しており、加えて新型コロナウイルス感染症の影響から、水産物部、花き部の取扱金額が大きく減少したため。 | 取扱金額の増加に向け、市場関係事業者に対し、販路の拡大や多角化等の経営改善を促すとともに、市場関係事業者と連携し新たに構築したホームページを用いて、生鮮食料品の周知、啓発などにも取り組み、消費拡大につなげる。 |
| | | | 1-(1)-⑦ | 特産品の育成・振興とブランド力の向上 | 販路開拓事業等来場者数（人） | 販路開拓事業等の来場者数 | 18,832 | 1,736 | 83,563 | 21,200 | 394.2% | 総合計画において、令和5年度の目標値を23,000人に設定（平成26年度の現況値＝17,600人から毎年度600人増）しているため。 | 産業振興課 | | |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|-------------|-----------------------|------------|------------|-------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|---|--|--|---|--|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度 実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少を抑制する戦略 | 1 創造性豊かで人間中心のまちを創る | 文化芸術の振興と発信 | 1-(2)-① | 文化芸術活動の推進 | アウトリーチ事業の参加者数（人） | 地域に向かいの文化芸術活動（アウトリーチ事業）の参加者数 | 123,208 | 140,100 | 26,099 | 123,500 | 21.1% | 事業内容等が成熟し、市民に浸透・定着してきていることから、今後は安定的な事業運営を目指し、当初値（平成30年度実績）と同水準の目標値とする。 | 文化芸術振興課 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業を中止するとともに、入場制限を行っての開催となったため。 | 新しい生活様式に即した形で、内容の充実を図りながら、市民のニーズに応じた事業を展開する。 |
| | | | 1-(2)-② | 国際的な発信力を持つイベントの推進 | 高松国際ピアノコンクールの入場者数（人） | 高松国際ピアノコンクールで会場に入場した人数 | 10,230 | 0 | 0 | 0 | - | 過去のコンクールで最も入場者数が多かった第1回コンクール（11,250人）と同水準の入場者数を目標値とする。 | 文化芸術振興課 | 高松国際ピアノコンクール開催年度ではないため。 | — |
| | | | 1-(2)-③ | 文化財の保存・活用 | 文化財学習会・体験講座参加者数（人） | ふるさと探訪、親子文化財教室・市民文化財教室等に参加した人数 | 1,227 | 1,067 | 207 | 1,320 | 15.7% | 5年間で約15%の参加者数増加を目指す。 | 文化財課 | 昨年と比較して親子文化財教室及び市民文化財教室は大きな数値の変化はないが、ふるさと探訪については例年、年10回実施していたところ、新型コロナウイルス感染症の影響で、定員30名の年1回のみ開催となり参加者数が減少したため。 | 指標としている文化財学習会や体験講座の実施方法や在り方について検討する。 |
| | スポーツの振興 | | 1-(3)-① | 市民スポーツ活動の推進 | 社会体育施設利用者数（人） | 本市の社会体育施設の延べ利用者数 | 2,007,396 | 1,984,830 | 1,443,218 | 2,727,500 | 52.9% | 第6次高松市総合計画の目標値（令和5年度）と同数としている。公共施設再編整備計画で廃止対象となっている施設もあり、新設するスポーツ施設の計画もないため。 | スポーツ振興課 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設を4月5月に休館したことや、天井改修工事実施のため3施設が休館したことから、目標値を達成できなかった。 | 指定管理者と協力し、SNS等多様な媒体を利用した施設のPR活動、全国規模のスポーツ大会の誘致・開催、利便性を向上させる施設の改修等のほか、新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、感染防止対策を講じた上で施設の管理運営を行う。 |
| | | | 1-(3)-② | トップスポーツの振興 | トップスポーツチーム試合観戦者数（人） | トップスポーツ4チームのホームゲーム観戦者数 | 113,138 | 73,238 | 34,965 | 160,700 | 21.8% | 平成26年度の来場者数を起算とし、令和5年度における各チーム毎の来場者目標人数を設定、合計人数から経過年数を案分し、6,500人/年増加としている。 | スポーツ振興課 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの観戦方法に制限が加わった点等から、いずれのチームの観客数も大幅減となり、また、香川アイスフェローズの試合は不開催となったため。 | 新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、感染防止対策を講じた上で実施する。 |
| | 訪れたくなる観光・MICE（マイス）の振興 | 1-(4)-① | 観光資源の活用と創出 | 本市の主要観光地利用者数（千人） | 本市の主要観光地（屋島・玉藻公園・塩江温泉郷）利用者数 | 763 | 828 | 452 | 874 | 51.7% | 再来訪意向調査の調査項目の変更に伴い、当施策の業績を測定するのに適した指標に変更する必要があることから、今後は、本市が重点的に観光振興に取り組んでいる「主要観光地（屋島・玉藻公園・塩江温泉郷）利用者数」をKPIとして設定する。 | 観光交流課 | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための移動制限や外国人の入国制限の影響を受けているため。 | 令和3年度中の完成を目指して屋島山上交流拠点施設を整備するとともに、民間事業者と連携しながら、国の実証事業に応募し、屋島山上、玉藻公園を活用したコンテンツ造成を検討する。また、塩江温泉郷については、国の補助金を活用してワーケーション等の新しい観光需要に対応した取組を行う。併せて、MICE主催者に対して、屋島山上、玉藻公園、塩江温泉郷を本市ならではの歴史文化を演出できるユニークベニューとして活用するように積極的に働きかける。 | |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|-------------|-----------------------|----------|---------|----------------|--------------------------------------|-------------------------|--------------|---------|---------|---------|------------|---|------------------------------|--|--|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度 実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少を抑制する戦略 | 1 創造性豊かで人間中心のまちを創る | | 1-(4)-② | 観光情報の効果的発信 | エクスペリエンス高松（ホームページ）閲覧件数（件） | エクスペリエンス高松のホームページ閲覧件数 | 136,466 | 275,592 | 269,660 | 139,500 | 193.3% | 観光イベント振興事業は、「観光資源の活用と創出」に位置付けられる事業であり、当施策の業績を測定するのに適した指標に変更する必要が生じたことから、今後は、本市の観光情報を対外的に発信している「エクスペリエンス高松閲覧件数」をKPIとして設定する。年間1%ずつ増加。 | 観光交流課 | | |
| | | | 1-(4)-③ | MICE（マウス）の誘致促進 | コンベンション数（件） | 1年間に高松エリアで開催されたコンベンション数 | 217 | 171 | 24 | 279 | 8.6% | 高松市MICE振興戦略において令和5年度の目標値が306であり、年間1%ずつの増加を目指していることから、令和6年度の目標値は309とする。 | 観光交流課 | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための移動制限や外国人の入国制限の影響を受けているため。 | 感染症拡大防止対策助成制度及びハイブリット会議開催支援助成制度を創設することで、MICE主催者向けの支援を強化するとともに、MICE参加者向けプロモーション映像を製作することで、本市での開催件数及び参加者数の増加を図る。 |

たかまつ創生総合戦略 効果検証用資料

戦略：人口減少社会を抑制する戦略

基本目標：2 若者から選ばれるまちを創る

数値目標：令和6年に1年間の転入と転出の差（社会増）を 1,000人（当初値 令和元年：183人 → 現状値 令和2年：608人）

令和6年に15～39歳の人口の割合を23.7%（当初値 令和元年：24.5% → 現状値 令和2年：-%）←国勢調査の結果から算定（2021年11月公表予定）

達成度（4施策）：100%以上 2施策 90～99% 1施策 80～89% 0施策 60～79% 1施策 59%以下 0施策 実績なし 0施策

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|-------------|-----------------|------------|--------------|------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--------------|--------|--------|--------|--|---------------------------|---|--|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度 実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少を抑制する戦略 | 2 若者から選ばれるまちを創る | 大学等高等教育の充実 | 2-(1)-① | 大学の魅力向上への取組 | 包括協定を結んでいる大学等の学生・生徒の充足率（%） | 包括協定を結んでいる大学等の定員に対する学生・生徒数の割合 | 99.1 | 98.4 | 93.7 | 99.3 | 94.4% | 平成30年度実績から、年0.1%ずつ増加を目指す。 | 政策課 | 各高等教育機関の合格者が他の大学等を選択しているケースが多いため、概ね定員に近い入学者数を確保しているものの、目標値を下回った。 | 地元大学等の魅力向上に資する事業への支援を行うことで、若者から選ばれ、定着につなげる。 |
| | | 就業環境の充実 | 2-(2)-① | 就業支援の推進 | 中小企業等表彰事業（働き方改革部門）の表彰事業者延べ数（団体） | 中小企業等表彰事業（働き方改革部門）の表彰事業者の延べ団体数 | 0 | 2 | 4 | 4 | 100.0% | 毎年度2団体の表彰を目標とする。 | 産業振興課 | | |
| | 国際・国内交流の推進 | 2-(3)-① | 多文化共生のまちづくり | 翻訳・通訳回数（回） | 翻訳・通訳を行った回数 | 836 | 528 | 450 | 740 | 60.8% | 平成30年度の外国人登録者数の実績をベースに、過去3年間の外国人登録者数の伸び率を乗じたもので、目標値を設定している。 | 観光交流課 市交流室 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、周年事業の交流事業等が中止となったため。 | 翻訳・通訳支援の充実を図るため、関係課との情報共有や市民への周知を行う。 | |
| | 移住・定住の促進 | 2-(4)-① | 選ばれる地域づくりの推進 | 高松市移住ナビ（ホームページ）閲覧件数（件） | 高松市移住ナビのホームページ閲覧件数 | 35,735 | 29,039 | 40,802 | 13,750 | 296.7% | 平成30年度の実績値が、リニューアルにより大幅に上昇しており、引き続き、新着情報等の発信の強化や新たな情報コンテンツの設置などに取り組み、アクセス数を増加させる考えで目標値を設定した。 | 政策課 | | | |

たかまつ創生総合戦略効果検証用参考資料

戦略：人口減少社会を抑制する戦略

基本目標：3 子どもを生き育てやすいまちを創る

数値目標：令和6年度までに合計特殊出生率を 1.68（当初値 H 2 0～H 2 4：1.62 → 現状値 H 2 5～H 2 9：1.67）「厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計」令和2年7月発表

令和6年に出生数を3,400人（当初値 令和元年3,200人 → 現状値 令和2年：3,116人）

達成度（11施策）：100%以上 4施策 90～99% 4施策 80～89% 1施策 60～79% 1施策 59%以下 1施策 実績なし 0施策

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|-------------|--------------------|------------------|---------|-------------------|--------------------------------------|------------------------------|---------------------|-------------|-------------|--------------|----------------|--|--|--|--|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 平成30年度 実績 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 目標値 令和2年度 | 目標値に対する 達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人口減少を抑制する戦略 | 子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実 | 子どもを生き育てやすいまちを創る | 3-(1)-① | 子どもの心身の健やかな育ちへの支援 | 1歳6か月児健康診査受診率（%） | 1歳6か月児健康診査対象者のうち受診した割合 | 94.1 | 95.5 | 93.4 | 93.5 | 99.9% | 第6次高松市総合計画において、令和元年度から令和5年度までの4年間で2%上昇（93%→95%）を目指しており、1年度当たり0.5%の上昇であることから、令和6年度の目標値を、令和5年度から0.5%上昇の95.5%とする。 | 健康づくり推進課 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまでの集団健診から医療機関での個別健診に切り替えたことや、対象者の受診控えが要因として考えられる。 なお、実績は幼児健診の受診率で、歯科は81.6%。 | 引き続き、ホームページ等で周知啓発を行うほか、未受診者へのはがきによる勧奨や保育所等へ啓発の協力を依頼する。 |
| | | | 3-(1)-② | 健やかな成長を促す学びへの支援 | 認定こども園数（施設） | 教育・保育施設のうち認定こども園の施設数 | 17 | 19 | 20 | 19 | 105.3% | 第2期高松市子ども・子育て支援推進計画に掲げる目標値 | こども保育教育課 | | |
| | | | 3-(1)-③ | 配慮を要する子どもと保護者への支援 | 自立支援プログラム策定者の就職率（%） | 母子・父子自立支援プログラム策定者のうち就職に至った割合 | 72.2 | 62.1 | 58.0 | 85.0 | 68.2% | 高松市子どもの貧困対策推進計画に掲げる目標値 | こども家庭課 | 就職件数としてカウントしていないプログラム策定者の中には、当初転職を希望していたものの結果的に継続就労を選択した者や、看護師等専門性の高い職に就くため学校に通い始めた者等が含まれているため。 | ひとり親の就労・自立を応援するサブポーター企業への積極的な就労支援や、市役所2階ジョブコーナーとの連携による就労支援を引き続き進める。また、専門性の高い資格取得のため修学する者に対する給付金事業といった支援を組み合わせることにより、長期的な就労継続の実現を目指す。 |
| | | | 3-(1)-④ | 地域における子育て支援 | こども食堂等箇所数（か所） | 民間が実施するこども食堂等の箇所数 | 14 | 17 | 15 | 17 | 88.2% | 令和12年度までに各小学校区に1か所以上の子ども食堂が開設できるよう、毎年3か所の新規開設を目標とする。 | 子育て支援課 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども食堂を中止する団体があったため。 | 子ども食堂を実施する全ての団体に情報が行き届くよう、子ども食堂ネットワーク等を通じて事業の周知を行い、引き続き、開設・運営に係る団体支援を行うなどして、子ども食堂等の新規開設・再開を促す。 |
| | | | 3-(1)-⑤ | 子育てと仕事の両立支援 | 保育施設等待機児童数（人） | 4月1日現在での保育施設等待機児童数 | 62 | 77 | 59 | 0 | 23.4% | 国が掲げる「新子育て安心プラン」において、できるだけ早く、遅くとも令和6年度末までに待機児童を解消するための取組を強化・実施し、令和7年4月1日までに解消することを目指している。 | こども保育教育課 | 保育施設等の受け皿確保等に取り組むことで、待機児童数は減少傾向にあるものの、共働き世帯の増加等による申込児童数の増加や、保育士不足等により、目標を達成できなかった。 | 自主整備による私立の保育所、小規模保育事業などの募集を行うことで保育が必要な子どもの受入人数を増やすとともに、保育士確保施策を進め、施設の受入体制を整える。 |
| | | 男女共同参画の形成 | | 3-(2)-① | 男女共同参画の推進 | 審議会等における女性委員の割合（%） | 本市審議会等における女性委員の割合 | 39.4 | 39.4 | 38.9 | 42.0 | 92.6% | 令和3年度の目標値を42%としており、その更に上の目標44%を目指すこととする。 | 男女共同参画・協働推進課 | 審議会委員への推薦団体の委員の男女比や、女性が参画しやすい環境が整っていない分野がある等の理由により、目標値を下回ったと考えられる。 |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標 (KPI) ※令和2年3月策定 | | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | |
|-------------|------------------|----------|----------|-------------------------------|--|---|----------|-------|-------|--------|--|--|----------|---|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | 最終年次(令和6年度)目標設定の考え方 | | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少を抑制する戦略 | 社会を生き抜く力を育む教育の充実 | 3-(3)-① | 確かな学力の育成 | 学校評価平均評価得点(確かな学力の育成に関すること)(点) | 各校の評価得点(最高値4点、最低値1点)の平均点 | 3.25 | 3.25 | 3.35 | 3.20 | 104.7% | 評価をする際の最高点が4点であり、小学校及び中学校の半数以上の評価が4点、残りを3点となることを目標とする。 | 学校教育課 | | | |
| | | | 3-(3)-② | 豊かな心と体を育てる教育の推進 | 学校評価平均評価得点(体力・運動能力の育成に関すること)(点) | 各校の評価得点(最高値4点、最低値1点)の平均点 | 3.20 | 3.20 | 3.22 | 3.20 | 100.6% | 評価をする際の最高点が4点であり、小学校及び中学校の半数以上の評価が4点、残りを3点となることを目標とする。 | 学校教育課 | | |
| | | | 3-(3)-③ | 教員の資質向上と教員指導体制の充実 | 研修評価(点) | 研修を受講した教職員の研修に対する評価(最大4点) | 3.7 | 3.7 | 3.6 | 3.8 | 94.7% | 研修を受講した教員の評価は、ここ数年3.7前後を推移している。5年後も大幅な増減があるとは想定できないが、若干でも上がるように、H30年度の実績値より0.1ポイント上げた。 | 総合教育センター | 新型コロナウイルス感染症対応のため、8月末まではほとんどの研修会が中止、又は代替課題や研修資料の送付となったため。 | 集合研修だけでなく、オンラインなどを活用することで、新たな研修の仕組みを創出する。 |
| | | | 3-(3)-④ | 学校教育環境の整備 | ICTを活用した授業をわかりやすいと回答した児童・生徒の割合(抽出)(%) | 抽出による児童・生徒アンケートで、ICTを活用した授業をわかりやすいと回答した割合 | 65.0 | 88.1 | 96.1 | 80.0 | 120.1% | ICT機器の整備は、授業改善につなげるためのものであり、その結果としてわかりやすい授業が提供される必要があるため。 | 総合教育センター | | |
| | | | 3-(3)-⑤ | 家庭及び地域の教育力向上の推進 | 地域交流事業を実施している割合(%) | 子どもを中心とした地域交流事業を実施している地域の割合 | 43.2 | 45.5 | 56.8 | 59.1 | 96.1% | 令和元年度までで22地域で実施予定、令和2～7年度まで、毎年新規4地域を予定している。 | 生涯学習課 | 令和2年度は5地域増加し、実施地域が25地域となった。令和2年度目標とする26地域には達しなかったが、概ね計画どおり実施することができた。 | コミュニティ協議会、校区子ども会等への周知を図る。 |

たかまつ創生総合戦略 効果検証用資料

戦略：人口減少社会に対応する戦略

基本目標：4 高齢者が健やかに暮らせるまちを創る

数値目標：令和6年度に自立高齢者率 78.5%（当初値 平成30年度：78.8% → 令和元年度：78.7% → 現状値 令和2年度：79.1%）

達成度（6施策）：100%以上 3施策 90～99% 1施策 80～89% 0施策 60～79% 0施策 59%以下 1施策 実績なし 1施策

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|---------------|-------------------|-----------------------|---------------------------|--------------------|--|---|---------------------|-------------|-------------|--------------|---|--|------------------------------|---|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 平成30年度 実績 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 目標値 令和2年度 | 目標値に対する 達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| 人口減少社会に対応する戦略 | 高齢者が健やかに暮らせるまちを創る | 支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 | 4-(1)-① | 地域共生社会の構築 | アウトリーチ（地域での情報収集・戸別訪問等）件数 | まるごと福祉相談員が地域での情報収集・戸別訪問等した件数（年間） | 343 | 732 | 854 | 1,712 | 49.9% | 平成30年度モデル事業実績から、1地区1か月当たりの訪問箇所を参考に、1地区1年間で、延べ110か所とし、まるごと福祉相談員の人数を勘案して、目標設定している。 | 健康福祉総務課 地域共生社会推進室 | アウトリーチについては、まるごと福祉相談員が、地域での情報収集・戸別訪問等を実施した件数であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問する機会が減少し、実施件数が減ったため。 | まるごと福祉相談員の対象エリアを市内全域に拡充し、それに伴い人数を増員するとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、着実にアウトリーチを行っていく。 |
| | | | 4-(1)-② | ユニバーサルデザインの普及・啓発 | たかまつユニバーサルデザインマップの登録件数（件） | たかまつユニバーサルデザインマップの登録件数 | 771 | 818 | 819 | 890 | 92.0% | ・地域再生計画において設定しているKPIである ・近県で公開しているユニバーサルデザインマップの掲載施設数と同数を目指す | 政策課 ユニバーサルデザイン推進室 | 県下の新型コロナウイルス感染症の感染状況や感染拡大防止の観点から、積極的にUDマップへの登録依頼は控えることとした。これらの対応が、目標値を下回った要因の一つと考えられる。 | 市内の新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認しながら、適時、UDマップへの登録依頼を行う。なお、令和2年度と同様に、県内の高等学校が学習の一環として、同校周辺地域の店舗のUD状況の調査を行っており、同調査に合わせて登録依頼を行うこととしている。 |
| | | | 4-(1)-③ | 地域包括ケアシステムの構築 | 要介護者の在宅比率（%） | 在宅（介護保険3施設、介護医療院、認知症対応型共同生活介護、介護専用型特定施設入所者を除く）での要介護認定者の割合 | 79.1 | 79.9 | 79.7 | 77.4 | 103.0% | 第7期高齢者保健福祉計画の2018～2020、2025の推計値をもとに算出 | 介護保険課 | | |
| | | | 4-(1)-④ | 障がい者の自立支援と社会参加の促進 | 施設入所者の地域生活への移行者数（累計）（人） | 障害者支援施設から持ち家、賃貸住宅、グループホーム等へ移行した障がい者数 | 92 | 117 | 135 | 72 | 187.5% | 国の基準等を参考に、障害者支援施設からグループホーム等の地域生活への移行した障がい者数(平成26年度～令和6年度までの累計数)を設定。 | 障がい福祉課 | | |
| | 健康で元気に暮らせる環境づくり | 4-(2)-① | 生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病等）対策の推進 | がん検診受診率（20～69歳）（%） | がん検診を受診した市民の割合※高松市民の健康づくりに関する調査（対象：市民3,000人） | 54.5 | 52.6 | 62.6 | 60.0 | 104.3% | 職域等の検診を受診する市民が増えていることから、指標を「本市が行うがん検診の受診率」から、高松市民の健康づくりに関する調査に基づく「がん検診受診率（20～69歳）」に変更。 目標値は、高松市健康都市推進ビジョンの令和5年度60%に基づき、60%とする。 なお、実績値について、平成30年度は、高松市民の健康づくりに関する調査が、高松市健康都市推進ビジョン中間見直しに伴う設問等の見直しにより未実施であったため、直近値の平成29年度としている。 | 健康づくり推進課 | | | |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|----|------|----------|---------|------------|--------------------------------------|---|---------------------|------------|------------|--------------|----------------|------------------------|------------------------------|--|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 平成30年度 実績 | R元年度 実績 | R2年度 実績 | 目標値 令和2年度 | 目標値に 対する達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 4-(2)-② | 救急医療体制の確保 | 夜間急病診療所利用者に対する満足度調査「満足」回答率（%） | 夜間急病診療所利用者を対象に実施したアンケート調査で「満足」と回答があった割合 | 68.7 | 61.1 | - | 69.0 | - | H30年度実績値をR6年度まで維持するもの。 | 保健医療政策課 | 新型コロナウイルス感染症対策として、診療行為以外の患者との接触機会を減少させる目的により、令和2年度アンケート調査を実施していないため。 | 新型コロナウイルス感染を防止するため、令和2年度アンケート調査は実施していないが、令和3年度については、感染防止に配慮しながら、夜間急病診療所利用者の満足度を把握するため、調査方法を含め再度検討したい。 |

たかまつ創生総合戦略 効果検証用資料

戦略：人口減少社会に対応する戦略

基本目標：5 持続可能なまちを創る

数値目標：令和6年度に用途地域内の人口比率 64.9%（当初値 平成30年度：63.7% → 令和元年度：63.6% → 現状値 令和2年度：63.5%）

令和6年度に公共交通機関利用率 16.6%（当初値 平成30年度：15.2% → 令和元年度：15.3% → 現状値 令和2年度：11.5%）

達成度（17施策）：100%以上 9施策 90～99% 2施策 80～89% 0施策 60～79% 3施策 59%以下 3施策 実績なし 0施策

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|---------------|------------------------|----------|---------------------|-----------------------------------|---|-------|----------|-------|-------|--------|--|------------------|--|--|----------------|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | | 最終年次（令和6年度）目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少社会に対応する戦略 | 安全で安心して暮らせる社会環境の形成 | 5-1)-① | 救急活動の推進 | 一般市民による心肺蘇生法実施率（%） | 心肺停止症例のうち、バイスタンダーによる心肺蘇生法（胸骨圧迫のみの実施も含む）が実施された割合 | 34.8 | 34.6 | 39.0 | 40.0 | 97.5% | 総務省消防庁の「平成30年版 救急救助の現況」によると、すべての心肺機能停止傷病者に対し、一般市民による応急手当が実施された割合は約50%に達していることから、同等の水準を目標とする。 | 消防局消防防災課 | 令和6年度の目標値を達成するにあたり、経年的に目標を設定するとすれば、今期は40%を目指すべきところであったが、やや下回った。応急手当の普及啓発活動や、119番通報時の口頭指導に努めているが、通報者の動揺に対する対応や、バイスタンダーの高齢化などの課題がある。 | 新型コロナウイルスの収束状況を見計らい、若い世代への普及啓発活動を再開するとともに、香川県消防学校で令和3年度から開始される指令員教育に職員を派遣し、そこで得た知識を広く共有することにより、より有効な口頭指導の実施に努める。 | |
| | | 5-1)-② | 防災・減災対策の充実 | 地域における防災訓練の実施率（%） | 防災訓練を実施した地域の割合 | 95.5 | 100.0 | 38.6 | 90.0 | 42.9% | 第6次高松総合計画において、「令和5年度目標値100%」としていることから、地域の防災訓練で使用する非常食を助成するなどの支援を行い、すべての地域における防災訓練の実施を目指す。 | 消防局予防課 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区が訓練の開催中止や従来の訓練に代わる取組みを選択したため、実績値が目標値を大きく下回った。 | 感染症が収束するまでの間は同様の状況が見込まれるが、防災力向上のためにも事業は継続する必要があるため、「新しい生活様式」に対応した訓練手法等を地域が選択できるよう、支援の在り方を検討したい。 | |
| | 環境と共生する持続可能な循環型社会の形成 | 5-2)-① | ごみの減量と資源化の推進 | 1人1日当たりのごみ排出量（g/人・日） | ごみ総量に対する1人1日当たりの排出量 | 921 | 925 | 888 | 899 | 101.2% | 平成30年3月策定の高松市一般廃棄物処理基本計画において設定した目標値とする。 | 環境保全推進課 | | | |
| | | 5-2)-② | 地球温暖化対策の推進 | 市域の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） | 市域における産業、家庭、運輸などから排出される温室効果ガスの年間当たりの排出量 | 3,400 | 2,903 | 2,694 | 3,294 | 118.2% | 高松市地球温暖化対策実行計画において、2030年度に2013年度比で30%減の水準にすることを目標に掲げている。 | 環境総務課地球温暖化対策室 | | | |
| | 豊かな暮らしを支える生活環境の向上 | 5-3)-① | 空き家対策の推進 | 老朽危険空家除却支援件数（累計）（件） | 老朽危険空家除却支援制度利用により除去した空き家数（平成28年度からの累計） | 63 | 116 | 159 | 159 | 100.0% | 平成30年度実績値（累計）63件 +（48件/年 × 6年） = 351件 | くらし安全安心課 | | | |
| | | 5-3)-② | 公園・緑地の整備 | 市民1人当たり都市公園等の面積（㎡） | 市民1人当たりの都市公園等の面積 | 9.20 | 9.22 | 9.24 | 9.22 | 100.2% | 街区公園4公園、その他公園1公園整備 | 公園緑地課 | | | |
| | コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり | 5-4)-① | 多核連携型コンパクト・エコシティの推進 | 中心市街地の居住人口の割合（%） | 中心市街地活性化エリア内の人口の割合 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 5.1 | 94.1% | 第2期中心市街地活性化基本計画の目標値（平成29年度）5.1%を令和6年度まで維持するもの（毎年10月1日） | 都市計画課住宅・まちづくり推進室 | 中心市街地区域内における共同住宅の建築が、昨年度からは少し持ち直したものの、少子高齢化により、総じて居住人口が減少したものの。（-161人） | 第3期中心市街地活性化基本計画に基づき、基幹事業である大工町・磨屋町市街地再開発事業の推進により居住人口の増加を図るとともに、ハード・ソフトの幅広い施策・事業を推進することで、共同住宅等の建設喚起を促す。 | |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標 (KPI) ※令和2年3月策定 | | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | |
|---------------|--------------------|------------------------|--------------------|--------------------|---|-----------------------------------|----------|---------|---------|---------|---|--|--|--|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | 最終年次(令和6年度)目標設定の考え方 | | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少社会に対応する戦略 | 5 持続可能なまちを創る | コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり | 5-(4)-② | 公共交通の利便性の向上 | 交通結節拠点におけるバス路線の結節数(都心部を除く)(路線) | 交通結節拠点となる鉄道駅に、結節させるバス路線総数(都心部を除く) | 6 | 6 | 5 | 10 | 50.0% | 「公共交通利用率」を基本目標の目標値としたことから、第6次高松市総合計画における成果指標「交通結節拠点におけるバス路線の結節数」に修正したものを。 | 交通政策課 | 目標値については、こてでん伏石駅及びこてでん新駅(太田～仏生山駅間)が完成した際に結節するバス路線が主だったものとなっており、令和2年度において、2つの新駅整備が未完成であることから、目標値に届かなかった。 | こてでん伏石駅については駅前広場整備を進めると共に、こてでん新駅(太田～仏生山駅間)については、都市再生整備計画における目標年度である令和5年度の完成に向けて事業の進捗を図り、バス路線再編に向けた協議を進める。 |
| | | | 5-(4)-③ | 自転車の利用環境の向上 | レンタサイクル利用者数(人) | 1年間のレンタサイクルを利用した延べ人数 | 309,995 | 302,984 | 214,211 | 321,000 | 66.7% | 「自転車道等整備済延長」は、財政状況に左右される指標であることから、第6次高松市総合計画における成果指標「レンタサイクル利用者数」に修正したものを。 | 交通政策課 | 既存車両の新デザイン化を図るなど、利用促進策を講じたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各ポート利用者が減少したことから、目標達成に至らなかった。 | 平成26年度に決定した新デザインを施した車両を順次増やすほか、レンタサイクルの多様な在り方を踏まえた管理システムの構築に当たり、時代のニーズに即した利用申請・支払方法の導入による利便性の向上や、情報の可視化により利用の促進を図る。 |
| | | | 5-(4)-④ | 中心市街地の活性化 | 中央商店街の歩行者通行量(人) | 中央商店街の歩行者通行量(全日、15地点) | 89,879 | 134,083 | 106,543 | 97,721 | 109.0% | 第3期中心市街地活性化基本計画の基準値(平成29年度)に各事業による効果を加え、目標値とする。基準値 92,639人+事業効果 5,082人=97,721人 | 都市計画課 | | |
| | 拠点性を発揮できる都市機能の充実 | 5-(5)-① | 拠点性を高める交通網の整備と利用促進 | 市内J R駅の乗降客数(万人) | 高松市内にあるJ R駅での年間乗降客数 | 721 | 721 | 550 | 774 | 71.1% | 高松市地域公共交通網形成計画における目標である「公共交通機関利用率」と各モードの按分率から算出。 | 交通政策課 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の利用者が大幅に減少したことから、目標値に届かなかった。 | 既存の施策に加え、鉄道新駅の整備とバス路線の再編等、持続可能な公共交通ネットワークの再構築に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の収束状況も見極めながら、広報誌の活用、また学校・企業・地域への対象者別に作成したパンフレットを活用したモビリティ・マネジメントの実施により、市民意識の醸成と更なる利用促進に努める。 | |
| | | | | | | 63.6 | 75.0 | 75.0 | 100.0 | 75.0% | 平成30年度現在、44協議会中28協議会が見直し済。高松市コミュニティ連合会やNPO法人等と連携しながら、少なくとも毎年3協議会で見直し、令和6年度で全地域コミュニティ協議会での見直しを目指す。 | コミュニティ推進課 | 各地域コミュニティ協議会における課題や特性に合った事業が実施できる取組を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、地域内での会議等を予定どおり開催できないことから、見直しが進まない地域が多く、目標値に到達しなかった。 | 令和元年度から2年間実施した協働企画提案事業により、NPO法人がコミュニティプランの見直しを支援する取組を実施した。実施した成果として、コミュニティプラン見直しのヒントとなる「コミプラドリル」を作成し、各コミュニティ協議会に配布する等、コミュニティプラン見直しの支援を今後も継続して行っていく。 | |
| | 参画・協働によるコミュニティの再生 | 5-(6)-① | コミュニティ活動の支援 | コミュニティプランの見直し率(%) | コミュニティプランを見直したコミュニティ協議会の割合 | 63.6 | 75.0 | 75.0 | 100.0 | 75.0% | 平成30年度現在、44協議会中28協議会が見直し済。高松市コミュニティ連合会やNPO法人等と連携しながら、少なくとも毎年3協議会で見直し、令和6年度で全地域コミュニティ協議会での見直しを目指す。 | コミュニティ推進課 | 各地域コミュニティ協議会における課題や特性に合った事業が実施できる取組を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、地域内での会議等を予定どおり開催できないことから、見直しが進まない地域が多く、目標値に到達しなかった。 | 令和元年度から2年間実施した協働企画提案事業により、NPO法人がコミュニティプランの見直しを支援する取組を実施した。実施した成果として、コミュニティプラン見直しのヒントとなる「コミプラドリル」を作成し、各コミュニティ協議会に配布する等、コミュニティプラン見直しの支援を今後も継続して行っていく。 | |
| | | 5-(6)-② | 離島の振興 | 各島への年間来島者数(人) | 1年間の女木島・男木島・大島と島外の交流者数 | 133,264 | 238,603 | 161,054 | 134,500 | 119.7% | 人口が減少する中で、交流人口が微増又は、維持することを目指す。 | 地域振興課 | | | |
| | 相互の特長をいかした多様な連携の推進 | 5-(7)-① | 連携中枢都市圏における連携事業の充実 | 連携中枢都市圏での連携事業数(事業) | 圏域における生活関連機能サービスの向上、経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化に資する連携事業数 | 71 | 72 | 74 | 74 | 100.0% | 令和元年度の実績：72事業から、1年に2事業ずつ増やす。 | 政策課 | | | |

| 戦略 | 基本目標 | 施策の基本的方向 | 施策番号 | 具体的な施策・事業名 | 第2期たかまつ創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）※令和2年3月策定 | | | | | | | 担当課 | 令和2年度実績が令和2年度目標を下回っている場合のみ記載 | | |
|---------------|-----------------|--------------------|---------|-------------|--------------------------------------|--|--------------|-------|-------|-------|------------|---|------------------------------|--|---|
| | | | | | 指標名 | 指標の説明 | 当初値 | 令和元年度 | 令和2年度 | 目標値 | 目標値に対する達成度 | | 最終年次（令和6年度） 目標設定の考え方 | KPIが目標値を下回った理由 | KPIを上昇させるための取組 |
| | | | | | | | 平成30年度 実績 | 実績 | 実績 | 令和2年度 | | | | | |
| 人口減少社会に対応する戦略 | 5 持続可能なまちを創る | 相互の特長をいかした多様な連携の推進 | 5-(7)-② | 多様な主体との連携強化 | 多様な主体との連携・協力事業数（事業） | 庁内照会により把握した大学や企業等と本市の連携・協力事業数 | 140 | 168 | 168 | 152 | 110.5% | 平成30年度の実績：140事業から、1年に6事業ずつ（①大学等：3事業、②金融機関等：3事業）増やす。 | 政策課 | | |
| | | | 5-(8)-① | ICT・データの活用 | IoT共通プラットフォームで収集・分析するデータ種別数（種類） | 本市が構築したIoT共通プラットフォームにおいて、新たなサービス創出や地域課題の解決を推進するために収集・分析を行うデータの種別数 | 4 | 7 | 9 | 8 | 112.5% | 平成30年度実績（4）から令和2年度までは年間2種、以降令和6年度まで年間1種ずつデータを増加させる。 | デジタル戦略課 | | |
| | | | 5-(9)-① | 効率的な行政運営の推進 | 再編整備実施計画策定済みの施設数（施設） | 「高松市公共施設再編整備計画」において、今後の方向性を「用途変更」、「移転」、「廃止」とした施設のうち、再編整備実施計画を策定済みの施設の数 | 39 | 44 | 49 | 89 | 55.1% | 公共施設再編整備計画において、今後の方向性を「用途変更」、「移転」、「廃止」とした施設（89施設）全ての計画策定を目指す。 | ファシリティマネジメント推進室 | 再編整備実施計画の策定は、関連計画との整合など、全庁的な調整を行いながら進めることとしており、未策定の施設について、今後の利活用検討や関係者との調整に時間を要しているため。 | 再編整備実施計画未策定の施設所管課が、今後の方向性をできる限り早期に決定できるよう、進捗管理を適切に行う。 |

各施策の達成状況

| 基本目標 | 100% ～ | 90%～ 80% | 70%～ 80% | 60%～ 70% | ～59% | 実績 なし | 計 |
|-----------------------------|------------------|------------------|----------------|------------------|------------------|----------------|------------|
| 1 創造性豊かで人間中心 のまちを創る | 3 (2) | 3 (3) | 0 (0) | 2 (4) | 6 (4) | 1 (1) | 15 (14) |
| 2 若者から選ばれるまちを 創る | 2 (3) | 1 (1) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 4 (4) |
| 3 子どもを生き育てやすい まちを創る | 4 (6) | 4 (1) | 1 (0) | 1 (2) | 1 (1) | 0 (0) | 11 (10) |
| 4 高齢者が健やかで心豊 かに暮らせるまちを創る | 3 (1) | 1 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (1) | 1 (0) | 6 (4) |
| 5 持続可能なまちを創る | 9 (7) | 2 (5) | 0 (1) | 3 (1) | 3 (0) | 0 (1) | 17 (15) |
| 計 | 21 (19) | 11 (12) | 1 (1) | 7 (7) | 11 (6) | 2 (2) | 53 (47) |
| 割合 | 39.7% (40.4%) | 20.7% (25.5%) | 1.9% (2.1%) | 13.2% (14.9%) | 20.7% (12.8%) | 3.8% (4.3%) | |

※下段の（ ）はR元実績

基本目標の実績

| 基本目標 | 当初値 R元 | R 2 | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 |
|--|---------------|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 1 創造性豊かで人間中心のまちを創る 本市の主な観光施設等利用者数（千人） | 6,647 | 3,945 | | | | |
| 2 若者から選ばれるまちを創る 1年間の転入と転出の差（人） 15~39歳の人口の割合（%） | 183 24.5 | 608 - | | | | |
| 3 子どもを生き育てやすいまちを創る 合計特殊出生率 《出生数（人）》 | 1.67 3,200 | - 3,116 | | | | |
| 4 高齢者が健やかで心豊かに暮らせる まちを創る 《自立高齢者率（%）》 | 78.7 | 79.1 | | | | |
| 5 持続可能なまちを創る 《用途地域内の人口比率（%）》 《公共交通機関利用率（%）》 | 63.6 15.3 | 63.5 11.5 | | | | |

| | 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|--|-------|--|---|--|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|-----|-----|-----|-----|----|--------|-----|----|-----|-----|-----|
| | | | | 意見 | 質問 | 回答 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1ページ | 1-(1)-① | 中小企業等の育成と振興 | 産業振興課 | | 可能であれば、参加企業数、参加者の推移を教えてください。 | 次のとおりです。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加企業数</td> <td>122</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>129</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>参加求職者数</td> <td>115</td> <td>86</td> <td>179</td> <td>115</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table> | | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | 参加企業数 | 122 | 135 | 133 | 129 | 98 | 参加求職者数 | 115 | 86 | 179 | 115 | 162 |
| | | | | | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 参加企業数 | 122 | 135 | 133 | 129 | 98 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 参加求職者数 | 115 | 86 | 179 | 115 | 162 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 面談希望者の少ない企業に対するアドバイス等が行われていますか？ | 共同で開催している高松商工会議所において、面談希望者の少ない企業を含め、効果的な人材採用のポイントなどのフォローを行っております。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 合同就職面接会参加企業数を増やすために、どのようなアプローチをしていますか？ | 主な周知方法は、共同で開催している高松商工会議所やワークサポートかがわ、ハローワークが求人登録している事業者に対して行う通知やホームページなどへの掲載です。近年は募集企業数を上回る企業が応募している状況です。（R2状況：当初80社→最終98社） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 学生は知名度の高い企業に集中しがちであり、「知名度は低くても、高い技術力を有するなど、有力な企業も多い」という事実を伝え、より幅広い視点で企業選択を考えてもらえるような説明会ができないでしょうか。 参加者の要望を確認して案内しているとのことですが、学生の要望は狭い知識と先入観や思い込みで左右されがちで、希望する分野の視野も狭いため、視野を広げてもらうために様々な業種の説明を総合的に行える場があれば良いと考えます。 | 本就職面接会には多種多様な業種の企業が参加していることから、すべての業種を網羅した説明は難しいものと存じます。 ただし、御指摘のとおり、知名度の高い企業に学生が目を向けがちであると存じておりますので、一般的には知名度が低くても技術力が高いといった有力な企業にも目を向けていただくため、香川県内企業の概要を掲載した「かがわ企業ガイド」（香川県作成）を配布しており、これが視野を広げる一助となっているものと存じます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 企業の人材確保支援施策全体の中でも重要なものと考えられるので、開催告知段階から、参加企業のPRが十分になされるようなものとしてほしい。 | 参加企業決定段階で参加企業の情報についてはweb上で公開しております。今後、より効果的にPRできる手法を検討してまいりたいと存じます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ものづくり企業への支援が必要：ネットで全てのものが入手できる時代になり、これからは職人の居ない店やものづくりが出来ない店は必要が無くなります。オリジナル商品やオリジナルサービス、ネットで得られない物や機能を提供する人や会社を育てなければなりません。 | 現在、伝統的のものづくりを行う事業者を支援するため、伝統的のものづくり振興事業補助金などにより事業者の販路開拓、ブランド力向上などに努めております。引き続き、ものづくり企業を含め、事業者に対する支援を継続してまいりたいと存じます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | コロナ禍において、地方での就職（UIターン）を検討する若者が増加している。 合同就職面接会を企画する際は、地域の魅力や県内就学者へのインセンティブ（家賃補助）などを併せて発信し、UIターンを検討している若者に訴求した内容にする必要がある。 | 現在、UIターンを希望する若者に対しては面談会場までの交通費相当額を支給する制度が共催者である香川県にあり、これを積極的に周知し、経費負担の軽減に努めているところでございます。 今後は就職後の負担を軽減するインセンティブである家賃補助などの制度についても同時に周知に努めてまいりたいと存じます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1-(1)-② | 中央商店街の活性化 | 産業振興課 | 新規に店舗に入ってくれたお店に対して、永続的に営業してもらえるよう、アフターフォロー等を行っているのですか？ | 個店に対するアフターフォローは、市としては特に実施しておらず、商店街振興組合等の活動に対する支援という形で行っております。また、新規出店補助制度の利用者については、商店街振興組合加入及び活動への協力を要件としております。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-----------|---------|---|----|---|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | コロナの影響を考えるとやむを得ない実績と考えます。新規出店に加え、意欲のある既存店の事業継続、事業承継や事業再構築支援も行うことが重要。 | | 今後とも、商工会議所や商店街振興組合等と連携し、取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | 空き店舗情報と、出店に伴う改装費等の補助金情報を一本化し、出店を検討している事業者の目に付きやすく、また分かりやすいように、発信方法を工夫する必要がある。 | | 今後とも関係機関と連携し、新規出店補助制度の周知に努めてまいりたいと存じます。 |
| | | | 商店街の再生は、周辺居住者の増加と来街者の増加が必要です。 ・EV車対応の駐車場の整備：政府のゼロカーボン政策によりEV車時代が到来し、マイカー活用が更に進む。EV車対応の新駐車場の整備とEV車対応充電器の整備には行政の支援が必要となる。来街者の為の駐車場の整備が必要。 ・生活者の為の業種改善（物売りの町から人が住むための町への変身）：商店街を持続可能な地域にする為には都心居住の促進が必要です。居住者の安心安全で快適な生活をサポートする為の機能強化と施設整備が必要です。 ・安心安全な医療・食品・住居・アミューズメント・リラクゼーション・等々を提供できる町になる努力を続けければ商店街はこの先100年は大丈夫です。ネットにも負けません。 | | 来街者のための駐車場の整備については、商店街共同施設として新設・改修事業等に対する経費の一部助成を行っております。 その他の施設整備についても、来街者の安全安心確保のための防犯カメラの設置、アーケードの設置修繕などについて、香川県と協調して支援を行っております。 今後とも関係機関と連携し、商店街をとりまく環境の充実を図り、来街者増を目指してまいりたいと存じます。 |
| | | | 郊外型大型店全盛の時代において、中央商店街の活性化は容易ではありませんが、高松市は他都市と比較して良く健闘していると思います。 今回の指標では、新型コロナウイルス感染拡大のため達成度が低くなっていると思いますが、今後も精力的な事業の継続を期待します。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| 1-(2)-① | 文化芸術活動の推進 | 文化芸術振興課 | 「密」を回避しながら、学校連携の機会を増やすなど、リアルな活動を継続してほしい。 | | 昨年度においては、学校巡回芸術教室を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年よりも鑑賞者数を制限して開催するなど、コロナ禍の中にあっても、学校と連携した取組を実施してまいりました。 今後におきましても、学校と連携した文化芸術活動については、実施方法を工夫するなど、感染防止対策をしっかりと講じながら、可能な範囲で、継続して開催してまいりたいと存じます。 |
| | | | コロナ禍において、現地での活動や体験が制限される中、オンラインによる有効な振興・発信方法について検討する必要がある。 | | 昨年度において、市民が広くオンライン上などで視聴・鑑賞できる取組について補助を行う「たかまつ今こそ！アート事業」を実施したほか、今年度においても、「アート・シティ高松」の魅力発信や認知度向上につながる文化芸術作品を映像作品として募集し、オンライン上で公開を行う『「アート・シティ高松」文化芸術創出事業（オンラインアートクリエイト部門）』を実施するなど、オンラインを活用した、文化芸術の創造・発表・鑑賞の機会の創出に努めているところです。 今後におきましても、オンラインの活用も含め、「新しい生活様式」に即した文化芸術振興の在り方について、検討してまいりたいと存じます。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-------------|------------|--|--|--|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | 瀬戸芸・ピアノコンクール・美術館・等々、市民が本物の文化に触れられる事業の強化が、これからも大切です。 | | 今後におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、瀬戸内国際芸術祭及び高松国際ピアノコンクールを始め、まちなかパフォーマンス事業やデリバリーアート事業等を実施することにより、市民の皆様が、直接、文化芸術に触れられる機会の創出に努めてまいりたいと存じます。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない事と考えます。 | | 今後におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等も見極めながら、「新しい生活様式」に即した文化芸術振興の在り方について、検討してまいりたいと存じます。 |
| 1-(2)-③ | 文化財の保存・活用 | 文化財課 | 学習会について、現地・現物を見るのが効果的ではあると思いますが、オンラインツアー等の工夫もあった方がいいと思います。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | コロナ禍において、現地での活動や体験が制限される中、オンラインによる有効な振興・発信方法について検討する必要がある。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | 高松城の天守閣を再建する事によって、栗林公園との相乗効果が上がります。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 1-(3)-① | 市民スポーツ活動の推進 | スポーツ振興課 | 体育施設の改修等の環境整備を引き続き、着実に進めてほしい。 | | 修繕や機能向上など、施設の老朽度や利用者のニーズ等を踏まえ、引き続き環境整備に取り組んでまいりたいと存じます。 |
| | | | コロナ禍において、人的交流が制限させる中、オンラインやSNSを活用したスポーツの魅力を発信する取組が必要である。 | | 昨年度、新しい生活様式に合わせた運動の機会をつくっていただくため、市HPにおいて、ヨガ、ウォーキング、ストレッチ等、運動プログラムの動画配信を行いました。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない側面はありますが、世間一般として過剰な反応が見られます。スポーツ施設の利用が抑制されて市民の健康づくりにマイナスになってしまえば元も子もないので、過度にコロナウイルスを恐れることなく、十分な対策を取った上で、できるだけ多くの方がスポーツ施設を利用するよう推進していただきたい。 | | 県内の感染状況等を考慮しながら、今後も指定管理者と連携し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じつつ、できる限り市民にスポーツの場を提供してまいりたいと存じます。 |
| 2ページ | 1-(3)-② | トップスポーツの振興 | スポーツ振興課 | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない側面はありますが、屋外スポーツなどでは実際の感染リスクは低いにもかかわらず、世間一般として過剰な反応が見られますので、十分な対策を取った上で、もっと積極的に活動するべきではないでしょうか。 | 県内の感染状況等を考慮しながら、各リーグの感染症対応ガイドラインに基づき、感染防止策を講じた取組を検討し、実施してまいります。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|----------------|-------|---|--|--|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | <p>コロナ禍において、人的交流が制限させる中、オンラインやSNSを活用したスポーツの魅力を発信する取組が必要である。</p> <p>ガイナース、カマタマーレ、ファイアローズ、等々のプロスポーツが強くなるためには大きな資金力が必要。市民と民間企業が支援金を市に寄付して経費で落とせる、市が公的に拠出するとか。</p> <p>各トップスポーツの観戦者数を増やすためには、各チームの認知度向上を図り新しいファンの獲得が必要だと考えます。そのためには地元のテレビ・ラジオに協力してもらい、ケーブルテレビ以外での試合中継を多く放送してもらうことも有効だと思います。難しい取組かもわかりませんがご検討をお願いいたします。</p> | | <p>現在、試合配信、ファンとの交流等、SNSを活用した取組を実施しています。また、市HPにおいても、昨年度、トップスポーツチームによるチャレンジ動画の配信を行いました。</p> <p>市民のスポーツ振興に繋がることを目的とした施策ですので、ホームタウンイベントや児童観戦誘致事業等、市民向けの事業を実施することで、裾野の拡大に努めています。チーム力の強化につきましては、各チームがスポンサー獲得に尽力したり、クラウドファンディングを実施する等、資金調達に取り組んでいるところでございます。</p> <p>テレビ中継については、テレビ局との調整等、難しい部分はありますが、今後もトップスポーツチームの認知度向上に向けた取組を検討してまいります。</p> |
| 1-(4)-① | 観光資源の活用と創出 | 観光交流課 | | 塩江温泉郷をMICE主催者に対してユニークベニューとして活用すると記載されていますが、それ以外に何か有効活用する計画はありますか？ | 空港からの好アクセスや、Wi-Fi対応した宿泊施設等の観光インフラの充実など、塩江温泉郷のコンベンション環境を、合宿形式のコンベンションを主催している団体にPRして、開催を働きかけます。また、現在、塩江ならではの里山体験と上記のコンベンション環境を組み合わせる親子ワークショップを軸とした滞在型観光コンテンツの造成を行っているところであり、コロナ禍では主に県内、四国内等の近隣県をターゲットに資源を磨き上げ、アフターコロナには首都圏をメインターゲットに実施予定です。 |
| | | | | アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた形の環境整備、Webで紹介できるような要素も取り入れられるといいと思います。 | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | | 「KPIを上昇させるための取組」には共感できる。コロナ収束後、即座に観光誘致できるよう、「検討」ではなく、早期に「取組」必要がある。 | 国の実証事業に採択され、民間事業者と連携しながら、屋島山上や玉藻公園を舞台にしたコンテンツ造成に取り組んでいるところであり、今後も、積極的に国等の事業に応募し、コンテンツ造成を目指してまいりたいと存じます。 |
| | | | | 高松城の天守閣再建。 | (文化財課より回答) 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方ない事と考えます。 | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 1-(4)-③ | MICE（マイス）の誘致促進 | 観光交流課 | ハイブリッド会議への助成は有効と考えられる。オンライン視聴者向けには、市や物産の紹介を行う時間を少しでも設けていただくような工夫があってもいいかと思います。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | コロナ禍において、外国人の入国が制限される中、オンラインによる誘致促進やプロモーション方法について検討する必要がある。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-------------------|-------------|---|--|---|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方ない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 2-(3)-① | 多文化共生のまちづくり | 観光交流課都市交流室 | 人口減少を抑制し、持続可能なまちを創るには、外国人労働者の確保は必要不可欠である。県下企業の外国人労働者の受入体制と、外国人（留学生）への就業に関する情報発信の拡充を、一体となって行える仕組み作りが必要である。 | | (産業振興課より回答) 本市では現在、外国人労働者の受入等に関する専門の窓口は設けておりません。一方、香川県では外国人雇用及び外国人からの相談それぞれの専門の窓口を設けております。本市としては、外国人の雇用、就業に関する情報発信について、香川県など関係機関と協力して、周知してまいりたいと存じます。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方ない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 3-(1)-③ | 配慮を要する子どもと保護者への支援 | こども家庭課 | | ひとり親就労サポーター企業の登録数は何社ありますか？またこの制度をもっとPRした方が良いと思います。 | 登録社数：111社（R3.3現在） 周知方法といたしまして、ホームページや高松ひとり親サポートブック、児童扶養手当の現況届にチラシを同封するなど、多数の媒体を使って周知しているところです。 |
| | | | K P I に現れない支援対象者がいるということなので、そのような方も含めて、支援を継続して行くことが重要と考えます。 | | 当初転職希望をしていた者が看護師等の専門性の高い職に就くため学校に通い始めたため、就職件数に反映されていませんが、卒業後再度プログラム策定者として就職決定まで支援しており、今後も継続的な支援に努めてまいりたいと存じます。 |
| 4ページ | 3-(1)-④ | 地域における子育て支援 | 子育て支援課 | 子ども食堂を運営する民間団体に対し、行政関与の上、適切なコロナ対策を指導・支援し、まずは、運営を中止している団体の再開を促す必要がある。 | 本市におきましては、昨年度、子ども食堂に対し、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じつつ事業運営が行えるよう、マスクや消毒液等の衛生用品や感染防止のための備品の購入費などを補助したところでございます。 また、コロナ禍における感染防止対策にかかる国の通知文書を送付し、適切なコロナ対策を講じるよう通知しているところです。 そして、再開や新規開設促進につきましては、新規開設・運営費用の補助を行っているほか、子ども食堂運営団体により発足した「たかまつ子ども食堂ネットワーク」において、新規開設や継続運営のための助言等の支援が行われています。 なお、本市の補助金につきましては、今年度から交付条件を緩和しており、今年度に入り、新規で3団体開設し、他団体からも開設相談を受けているところです。 また、国の交付金の一時的な拡充を受けて、今年度8月からは、子ども食堂等運営団体に対し、子どもの居場所づくり等を委託する「つながりの場づくり緊急支援事業」を実施しています。 これらの事業を通じ、子ども食堂の継続的・安定的な運営を支援し、子ども食堂の再開や新規開設に繋げてまいります。 |
| | | | | こども食堂＆未来チケット＆無料塾。イニシャルに補助金を、ランニングは民間協力で工夫する、 | 本市では、子ども食堂の新規開設支援と開設後3年間の運営支援を行うため、子ども食堂の新規開設・運営費用の補助を行っております。また、民間の子ども食堂運営団体により発足した「たかまつ子ども食堂ネットワーク」が、新規開設や継続運営のための助言等の支援を行っておりますほか、各団体同士で、情報共有・連携しているところです。 また、「無料塾」という名称ではありませんが、生活困窮世帯の中学生に対する学習支援教室を市内4か所で実施しているところであります。 未来チケット等の各地域の参考となる取組につきましては、「たかまつ子ども食堂ネットワーク」を通じて運営団体と情報を共有し、各子ども食堂の特性などを活かした子どもへの支援に繋げてまいります。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-------------|------------------|------------------|---|--|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| 3-(1)-⑤ | 子育てと仕事の両立支援 | こども保育教育課 | | 高松市のオープンデータから高松市の幼年人口と保育施設の収容可能数の分析を行ったところ、保育施設の不足エリア（木太町等）が明確になった。小規模保育事業募集については、そのような不足エリアに限定する等の対策が必要では。 | 御指摘のとおり、木太町を含む都心地区や、太田・多肥・林町を含む中部地区は、保育の受け皿不足が見込まれていたため、令和元年度に募集して、令和2年度には新たに5施設が設置されています。 保育施設については、すでに定員が利用者を上回っているものの、地区や施設によって、保育ニーズに偏りが生じているため、受け皿不足が見込まれる地区に限定して募集しております。 なお、令和3年度の募集については、中部地区において、今後の受け皿不足が見込まれたため、中部地区のみ募集しました。 |
| | | | | 保育士の確保は難しいと思いますが、保育士が少ないことによる過重労働や管理不十分での事故発生などのリスクも高まるので、引き続き、保育士確保対策に注力していただきたい。 | 平成30年度から、保育士確保緊急対策事業として、潜在保育士への就職支援や新卒保育士への一時金の支給などを実施してきました。 また、令和3年度においても、内容を一部見直した上で、継続して実施しております。 今後も、待機児童の状況や保育士の確保状況などを踏まえ、対応してまいりたいと存じます。 |
| | | | | 待機児童数を「0」にするには、保育施設の増加と、保育士の確保は両輪であると考えます。 また、女性の社会進出を受け、働く女性に合わせた保育施設の充実を図る必要がある。 | 保育士確保については、平成30年度から、潜在保育士への就職支援や新卒保育士への一時金の支給などを実施しており、令和3年度においても、内容を一部見直した上で、継続して実施しております。 また、保育施設の充実については、すでに定員が利用者を上回っているものの、保育ニーズの偏りにより、受け皿不足が見込まれる地区に限定して、整備を図っております。 |
| | | | | 保育施設、託児施設の増強 何時でも、突然にも対応できる施設が必要。 | 保育施設については、すでに定員が利用者を上回っているものの、保育ニーズの偏りにより、受け皿不足が見込まれる地区に限定して、整備を図っております。 |
| | | | | 待機児童の解消は、健全な子供の成長のためにも、また社会を支える親の経済活動の支援としても、高松市にとって極めて重要な施策であり、引き続き全力で取り組んでいただきたい。 | 今後も、保育ニーズや待機児童の状況を見極めながら、早期の待機児童解消に向けて、適時適切に対応してまいりたいと存じます。 |
| 4-(1)-① | 地域共生社会の構築 | 健康福祉総務課地域共生社会推進室 | | I Tを活用する予定は？ | 現在のところ、地域共生社会の構築に向けた体制構築等を実施しているところであり、具体的なI Tの活用予定はございませんが、事業に対するI Tの効果的な活用について、今後検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | | まると福祉相談員への相談件数(需要)は具体的にどれくらいありますか？また増員すると記載されていますが、現在の人数と増員目標人数を教えてください。 | まると福祉相談員への相談件数は、H30年度50人、R元年度175人、R2年度400人となっています。(ただし、対象エリアを順次拡充しており、H30年度は、香南地区と勝賀総合センターエリアでH30年8月から事業開始(8か月間)、R元年度は、牟礼・香川(香南地区以外)総合センターエリアでR元年10月から新たに事業開始(6か月間)、R2年度は、国分寺総合センターエリアでR2年10月から新たに事業開始(6か月分)となっています。) また、まると福祉相談員の配置目標人数は5人としており、R2年度は4人でしたが、R3年度は、5人に増員するとともに、連携・協働する生活支援・介護予防サービス提供体制構築のため、配置している生活支援コーディネーター10人と、一体的に業務を実施できるよう、職を兼務し、15人を配置しています。 |
| | | | | 高齢化社会において、「KPIを上昇させるための取組」に記載の通り、エリアごとに適切な人員配置(増員)を行い、着実にアウトリーチを行っていく必要がある。 | 生活支援コーディネーターと一体的に業務を実施できる体制をとった上で、人員配置を行い、着実にアウトリーチを行ってまいりたいと存じます。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-------------|--------|------------------------------|---|--|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方ない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 5-(1)-② | 防災減災対策の充実 | 消防局予防課 | | 防災訓練は対面での実施が必要なため、コロナ禍において、計画未達はやむを得ないと考える。 一方で、災害に対する危機意識醸成のため、防災対策の必要性をオンラインなどで配信する取組みを検討しても良いのではないかと。 | (危機管理課より回答) 市民の防災意識の向上のため、毎月1回、香川大学から講師を招き、市民が気軽に防災や減災について語り合える「防災まちカフェ」を開催しておりますが、コロナ禍のため、この「防災まちカフェ」については、リモートで視聴できるなどの取組みを行っております。また、年1回、地域における防災力及び市民の防災意識の向上を目的として、防災の専門家を招き、市民防災講演会を行っておりますが、この講演会につきましても、令和2年度からは、リモート形式で実施しております。 |
| | | | | 高松市には防災士認証登録者数は何人いますか？また防災士の活用事例があれば教えてください(防災士ネットワーク等)。資格を取得しただけで何もしていない方が多いと思うので、防災士向けの研修・ミーティング等を実施した方が良いと思います。 | (危機管理課より回答) 高松市における防災士認証登録者数は、1, 338人となっております。(R3.7末現在) 本市におきましては、地域防災の担い手の育成を促進し、地域防災力の向上を図るため、平成22年度から、防災士の資格取得費の補助制度を設けておりまして、補助金の交付に当たりましては、防災士の資格の取得後、防災リーダーとして地域コミュニティ協議会等で活動を行った実績を要件としているほか、地域コミュニティ協議会に対して、新たに資格を取得した防災士(補助金申請者)の氏名等を紹介し、地域の防災活動に、防災士を活用していただくよう依頼するなど、その活用の促進を図っているところでございます。 また、防災士を会員とした「高松市防災士ネットワーク」を組織し、電子メールを利用して、本市からの防災情報や、地域での防災訓練等の活動情報を配信するほか、香川大学から講師を招き、会員を対象とした図上演習等の研修会を開催することによりまして、地域での防災活動への参加促進と防災士の知識・技能の向上を図っているところでございます。 |
| | | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方ない側面はありますが、屋外防災訓練などでは実際の感染リスクは低いにもかかわらず、世間一般として過剰な反応が見られます。防災訓練は非常に重要なので、十分な対策を取った上で、もっと積極的に実施するべきではないでしょうか。 | 市内44地区における地域防災訓練に関しては、各地域コミュニティ協議会等が主体となって開催しており、市は地域が訓練を開催しやすい環境づくりとして、訓練時に使用する非常食の助成や職員の派遣等を行っております。 新型コロナウイルス感染症が未だ収束の兆しを見せない中、不特定多数の方が密集するような従来型の訓練方法を見直し、感染防止にも対応しながら各地域が安心して実施を選択できるよう、新たな訓練手法や防災の取組みについて、先進事例の紹介などの側面支援に取り組んでまいりたいと存じます。 |
| | | | 耐震強化支援 | | 建物の耐震化に係る施策状況ですが、市建築指導課では、昭和56年以前に建てられた旧耐震基準の建物を対象として住宅の耐震診断・改修等に要する費用の一部を補助する制度や、緊急輸送道路を閉塞する一定の要件を満たす建物の耐震診断・改修等に要する費用の一部を補助する制度を設けています。 防災・減災については各局共通の課題であることから、各所管業務に応じてそれぞれ施策を展開しており、消防局では、地域防災訓練の推進等の実動的な部分を担当しておりますが、現在のところ、建物の耐震強化支援の施策は設けておりません。 |
| 5-(4)-② | 公共交通の利便性の向上 | 交通政策課 | | ことでん伏石駅周辺の整備が非常に遅れています。何が原因なのでしょうか。 | ことでん伏石駅の駅前広場整備に当たっては、埋蔵文化財発掘調査や、関係者との協議に時間を要したことから、当初計画からは遅れが生じております。 現在、国道交差点改良工事を含む関連工事の工程調整を行い、年内の伏石駅前広場の供用開始に向け、取り組んでおります。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|-------------|-------|---|--|---|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| | | | | 公共交通機関の充実として電車とバスの結節については強化されていると思いますが、駅やバス停が近くに無い市民に対しての公共交通機関の利便性向上については、どのように検討されているのか、また計画されているのであれば、それについて教えてほしいです。 | いわゆる公共交通空白地域における移動手段については、地域とともに連携しながら、コミュニティ交通路線の導入に向けた検討や試験運行等の支援を行っております。 地域の需要や状況に応じて、最適な交通モードを検討し、公共交通によるカバーが困難な場合は、福祉施策での移動支援についても検討しております。 |
| | | | 高齢化社会において、高齢者の運転免許証返納率を高め、交通事故抑制に繋げるためにも、公共交通の利便性の向上は必要不可欠である。ことでん伏石駅の整備など、コンパクトシティ構想を加速させる必要がある。 | | 人口減少、少子・超高齢社会における、持続可能な公共交通ネットワークの形成に向け、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの考えの下、ことでん琴平線沿線への新駅整備や、バス路線の再編に取り組んでおります。 |
| | | | 高松では一度に千人の移動は殆ど無い。よって、電車の延長は必要が無いし、投資が大きすぎるので黒字化は無理。路面電車も金が掛かり過ぎる。これからは、自動運転のバスが主力と考える。これなら黒字化出来る可能性もある。 | | 自動運転の技術は高まっており、今後はバスも含めて普及されるものと思われますので、本市としても国の動きを注視しながら、交通事業者とも連携して、検討していくことが必要であると考えております。 |
| 5-(4)-③ | 自転車の利用環境の向上 | 交通政策課 | | スマートシティたかまつ においてレンタサイクルの利用動態データを収集し、一部分析しているが、同データ分析結果から課題、対策の検討は行われていますか？ | (観光交流課より回答) レンタサイクルの利用動態データ分析は、本市内でのインバウンドの動態調査のために実施しているものであり、東アジア系は中心市街地内を移動する傾向がある一方で、欧米系はより広範囲に平たんな田園風景を楽しみながら移動する傾向があるなどの分析結果を得られています。これらを基に、本市観光サイト「エキスペリエンス高松」において、レンタサイクルでの中心市街地のうどん巡りや、1泊2日で海・山・川を満喫するサイクリングコースの魅力を日・英・韓・簡体・繁体の5言語で情報発信しているところですが、さらなる情報発信に役立てるため、今後も、当該利用動態データ分析を継続していく予定です。 |
| | | | 愛媛県との連携による自転車文化の推進と、公共交通機関の充実を組み合わせた仕組みづくりに発展させる必要がある。 | | この度の御意見を参考とさせていただきます。 |
| | | | 使い易い駐輪場の整備が最も重要。店や目的地から遠くなると使いにくい。北欧のように、道路に美しく並べる駐輪装置を上手に使えばいい。都心部はシェアサイクルが良い(もっと工夫が必要ですが。) | | 本年度改定する「高松市自転車等駐車対策総合計画」において、本市中心市街地や鉄道駅周辺の自転車総量等の実態調査を実施することとしており、その中で、本市のまちにふさわしい駐輪場のあり方を整理していきたいと考えています。 道路駐輪場については、安全面からも慎重な検討が必要だと考えます。シェアサイクルについては、利便性の向上を目指し、新たなシステム構築に取り組んでおります。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため仕方ない側面がありますが、市民の健康増進、石油資源の浪費抑制、交通渋滞の緩和など、自転車利用の推進は極めて意義深い施策であり、坂の少ない高松市は自転車利用が適していることから、レンタサイクルの利用促進を今後も強力に進めていただきたい。 | | 現在、レンタサイクルのシステムを更新しており、新たなシステムでは、モバイル申請やキャッシュレス化、GPSロガーによる利用状況の可視化等により、利便性を向上させることとしております。 今後とも、周知啓発等により、レンタサイクルの利用促進を図ってまいりたいと存じます。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 |
|---------|--------------------|----------------|--|----|--|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 |
| 5-(5)-① | 拠点性を高める交通網の整備と利用促進 | 交通政策課 | 市内JR駅の乗降客数は重要な指標だが、JR、ことでん、バス、レンタサイクルなどの各交通ネットワークの再構築を行うことで、将来のM a a Sを見据えた取組みとする必要がある。 | | MaaSに関する国の動向を注視しつつ、政策統合を見据えた取組みとなるよう、交通事業者等とも連携を図りながら、公共交通ネットワークの形成と共に、公共交通の利便性向上策に取り組んでまいりたいと存じます。 |
| | | | 無公害で安全なE V車の出現とA Iの導入により、地方都市の生活は画期的に変化し、大都市よりも住みやすくなります。衝突しない車が出来れば、自動車は自転車よりも安全です。高齢者こそA I車が必要な時代が、あつと言う間に来ます。 | | A I車等、次世代の自動車については、時代のニーズをとらえ、国の動きも注視しながら、検討していくことが必要であると考えております。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 5-(6)-① | コミュニティ活動の支援 | コミュニティ推進課 | 人口減少・少子高齢化が顕著な地域は、自治会やコミュニティが破綻し、機能していない可能性がある。よって、活動の担い手を確保するためにも、コミュニティ活動をボランティアではなくビジネス化する取組を検討する必要があると考える。 | | 地域が補助金だけに頼るのではなく、コミュニティビジネス等により、財源を確保することで、地域の自立を促進していくことは、今後、より重要になってくるものと考えております。法人化の推進や、他自治体の事例を紹介するなど、地域における人材を養成し、各地域の実情に合わせたビジネス化の動きとなるよう、支援を行ってまいりたいと存じます。 |
| | | | 新型コロナウイルス感染拡大のため、仕方がない事と考えます。 | | 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、今後とも適切に事業を実施してまいりたいと存じます。 |
| 5-(9)-① | 効率的な行政運営の推進 | ファシリタマネジメント推進室 | 時間を要しても、地域ニーズに対応する用途変更など、関係者との協議・合意の下で、適切な対応をお願いしたいと思います。 | | 再編整備実施計画の策定においては、各施設所管課が地域の関係者等の協議を行っておりまして、今後も、地域との協議を十分に行った上で、再編の方向性を検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | PPP/PFIなどの手法を用いた公共施設の再編・整備を進めるべく、前広にサウンディングを行い、さまざまな角度から利活用について検討していく必要がある。 | | 令和2年度、国土交通省が実施した「官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォーム四国ブロックサウンディング」や、「かがわPPP/PFI地域プラットフォーム」において、サウンディングを実施しておりまして、今後も、PPP/PFIによる整備案件の組成に向け、積極的にサウンディングを活用し、官民連携事業の案件成立に努めてまいりたいと存じます。 |
| | | | 行政支出の削減だけでは行政赤字は改善されません。官が工夫（規制緩和）をして出来るだけお金を使わずに、民間を儲けさせる工夫が必要です。民間投資は利益が見込めなければ動きません。過去の良かった時代は2度と帰っては来ません。例えば、中央通りが四国一のオフィス街として復活する事はありません。（四国支店が不要になる時代です。）とすれば、四国一美しい中央通りをもう一度生かす方法は何かを考えれば良いだけです。中央通りを居住地域にする。都心部の居住施設については、新設、リニューアルとも容積率を300%増加させる。規制を緩和するだけで、マンション業者も儲かる筈ですし、高松市も儲かる筈です。魅力的な都心マンションが出来れば、大都市から帰ってくる人達も必ず増えます。最後は、故郷高松で死のう。福岡市の最大容積率は1400%です。民が儲からない町は消えて行くだけです。 | | （都市計画課より回答）本市では、目指すべき都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指し、「都市構造の集約化に向けた総合的な施策パッケージ」をとりまとめ、17の施策・事業の実施、検討を行っております。その中の施策の1つとして、中心市街地活性化基本計画区域等において、都市機能の集積を後押しし、賑わい創出や都心居住等を促進するため、民間の都市開発に対する規制緩和策等を検討しております。本市といたしましては、規制と誘導の施策をバランスよく効果的に組み合わせながら、引き続き都市構造の集約化に取り組んでまいりたいと存じます。 |

| 施策番号 | 具体的な施策 | 担当課 | 施策・事業に対する意見・質問など | | 担当課 | |
|------|--------|-----|--|---|-----|--------------------------------------|
| | | | 意見 | 質問 | 回答 | |
| | | | | 精力的に計画策定を進めていって頂きたい。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | 全体意見 | | 多くの事業について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での目標未達となっていると見受けられますが、継続することが重要な事業ばかりだと思っておりますので、オンラインの活用、デジタル技術による非接触等「密」回避での実施方法の工夫等を行って、各事業の継続、推進を図ってほしいと思っております。 | | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |
| | | | | コロナ感染が拡大し、収束が見通せない中、目標に届かない事例が出るのはやむを得ないと思っております。意見や質問などはありません。引き続きの努力をお願いしたいと思います。 | | 頂いた御意見を参考に、今後とも取組について検討してまいりたいと存じます。 |